

【オリコンサル、ふたば、東北大学が共同研究 DXで魅力創出、復興まちづくり】

DXで魅力創出、 復興まちづくり

オリコンサル、ふたば、
東北大学が共同研究

オリエンタルコンサルタンツと建設コンサルタンのふたば（福島県郡山市、遠藤秀文社長）、東北大学の3者は、東日本大震災の原子力災害被災地の福島県富岡町で復興まちづくりに関する共同研究を始める。DXで魅力創出に向けた課題などを分析。避難指示解除後も住民の帰還・定住が進まない同町「夜の森地区」で地域資源を活用しながら

にぎわいを取り戻す。研究期間は3年を予定している。

3月26日に同町の文化交流センターで、研究概要などを説明するキックオフミーティングを開いた。東北大の今村文彦副学長、オリコンサル東北支社の森本尚弘支社長、ふたばの遠藤社



左から森本支社長、今村副学長、遠藤社長、宮川大志富岡町副町長

長らが出席。森本支社長は「多くの人が集まる空間をつくるため、われわれが持つデジタル技術で人の動きなどを計測、分析し可視化する」と説明。「産学が協力するとともに町とも密に連携しより良いまちづくりで復興に貢献したい」と述べた。

研究は東北大と富岡町が結んでいる「創造的復興や地域の活性化」に関する協定の一環で行う。夜の森地区を象徴する桜を最大限生かした魅力創出などに取り組む。

4月の桜まつり開催時にAIなどを活用して歩行者属性や通行量、滞留時間、回遊行動などのデータを解析。3D都市モデルなども構築し、桜並木をはじめまちに潜む課題を抽出する。これらを通じてにぎわいを生み出す空間の再整備や景観形成、各種イベント開催などにつなげる。